

地域包括ケアの推進に関する一研究（その1）

地域包括ケアの推進要件に係る自由記述の意味の解釈をふまえて

吉田麻衣（長崎純心大学人文学部）
潮谷有二（長崎純心大学人文学部）
永田康浩（長崎大学地域包括ケア教育センター）
奥村あすか（長崎純心大学人文学部）
宮野澄男（長崎純心大学客員教授）
HP（<http://www.n-junshin.ac.jp/cmw/>）
Facebook（<https://www.facebook.com/cmw.n.junshin>）

1

表1-1 地域包括ケアの推進要件に係るキーワード

H26調査				H28調査			
「介護」 「医療」 「基盤」 「介護」 「保険」	「予防」 「介護」 「整備」	「自助」「互助」「共助」 「地域ケア会議」「開催」 「社会」「資源」「開発」 「スキル」「アップ」		「顔」「見える」「関係」 「人材」「育成」 「ボランティア」「育成」 「地域包括ケア」「システム」 「構築」	「地域」「住民」 「理解」 「関係」「機関」 「連携」 「共通」「認識」 「情報」「共有」 「課題」		
「開発」 「職員」		「体制」 「ネットワーク」		「高齢者」 「専門」	「周知」 「共有」		
「人員」 「役割」 「マンパワー」 「ニーズ」 「明確」		「在宅」 「困難」 「確保」 「自治会」 「スキル」等		「改革」 「施策」 「システム」 「社会福祉協議会」 「世代」	「事業」 「説明」 「共有」 「参加」 「活動」等		

- そこで、本報告では、地域包括支援センターが地域包括ケアを推進していくにあたり何が必要となっているのかについて具体的に明らかにするために、両調査から得られた自由記述によるテキストデータの意味の解釈を行った。

3

I. 研究の背景と目的

- 平成23年の介護保険法の改正（「介護サービスの基盤強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」）に加え、平成26年の「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律（医療介護総合確保推進法）」の制定を受け、全国の市区町村において地域包括ケアシステムの体制整備が進められている。
- これらの政策状況を視野に入れ、長崎純心大学医療・福祉連携センターでは、平成26年2月（以下、H26調査という。）と平成28年4月（以下、H28調査という。）に全国の地域包括支援センターを対象に調査を行った。
- H26調査及びH28調査の地域包括ケアの推進要件に関する自由記述について、吉田ら（2018）は、樋口（2004）が開発したKH Coderを用いてテキストマイニングを行い、地域包括ケアの推進要件に係るキーワード（表1-1）を推察しているが、これらの抽出語がどのような文脈や意味で使われているのかについては明らかにしていない。

2

II. 方法

	H26調査	H28調査
1.調査方法	質問紙を用いた自計式の郵送調査法	
2.調査対象者	全国の地域包括支援センター（サブセンター・ブランチ含む）4,834か所に配置されている社会福祉士またはそれに準ずる者	全国の地域包括支援センター（サブセンター・ブランチ除く）4,622か所に配置されている社会福祉士またはそれに準ずる者
3.調査期間	平成26年2月6日から2月末日	平成28年4月4日から4月末日
4.回収率	25.2%（1,217件）	21.2%（981件）
5.測定方法（質問内容）	「あなた（回答されている方）は、地域包括支援センター圏域において地域包括ケアを推進していくにあたり、何が必要だと思いますか。ご自由に記入下さい。」	
6.分対象数	自由記述式の回答（n=773）からなるテキストデータ	自由記述式の回答（n=491）からなるテキストデータ
7.倫理的配慮	あらかじめ、調査対象者に調査実施に対する承諾を得た上で、調査を実施するとともに、分析においては、調査対象者や対象となった地域包括支援センターを特定することができないように、必要に応じて固有名詞や地名等のマスキングを行った。	

4

7. 分析方法

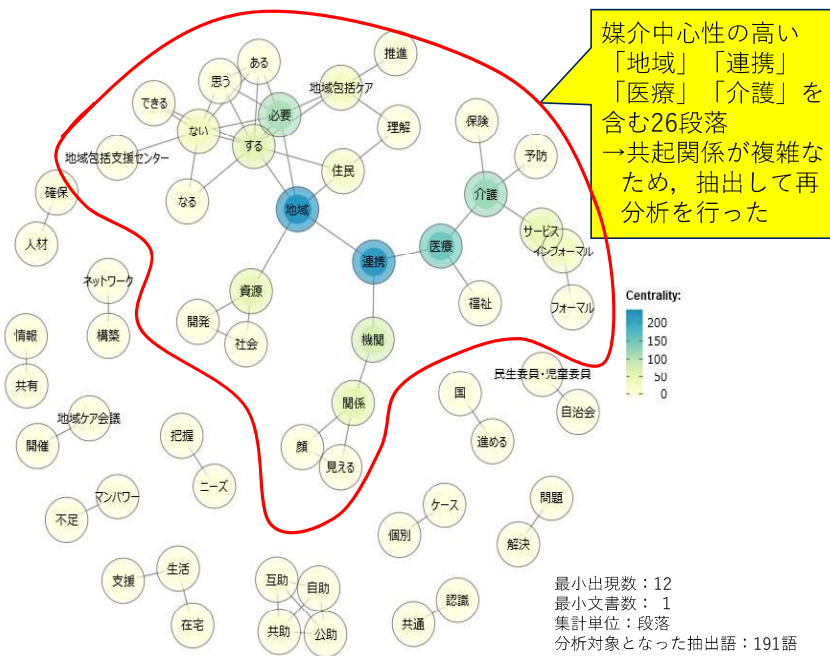
- 潮谷（2012）、樋口（2014）を参考に、樋口（2004）が開発したKH Coder3.Alpha17aを用いたテキストマイニングによってH26調査、H28調査別に計量的にテキストデータの分析を行った。なお、具体的な分析手続きは、下記の通りである。
- 1. H26年調査結果及びH28年調査結果のそれぞれについて、表Ⅱ－1に示す同義語処理並びに強制抽出語等を用いたテキストマイニングによって基本統計量の算出と、品詞と頻度で分類された抽出語リストの観察を行った。
- 2. 集計単位を段落とする共起ネットワーク分析の結果を踏まえて、媒介中心性が高い抽出語を含むテキストデータを別途作成し、段落単位でのクラスター分析（Ward法、Jaccard距離）を行った。なお、クラスター数の決定に当たっては、クラスター併合水準の観察を行い、クラスター数を決定した。
- 3. 各クラスターに分類された自由記述の内容について、各クラスターに特徴的な語も参考にしつつ文脈や意味の解釈を行い、その結果を踏まえて地域包括ケアの推進要件について明らかにした。

表Ⅱ－1 同義語処理語及び強制抽出語、使用した品詞

●同義語処理（同義語処理前の語句） ・地域包括支援センター（包括、包括支援センター、包括センター、地域包括） ・介護支援専門員（ケアマネ、ケアマネジャー、ケアマネージャー、CM） ・社会福祉協議会（社協） ・民生委員・児童委員（民生児童委員、民生委員、児童委員、民生委員） ・地域包括ケア（包括ケア） ※なお、同義語の処理はkwicコンコダンス分析やコロケーション統計の結果を踏まえて、同義語として扱うことの妥当性を判断した上で、処理を行った。
●強制抽出した語（＝タグ） 地域包括支援センター、地域包括ケア、民生委員・児童委員、社会福祉協議会、介護支援専門員、多職種、他職種、高齢者、自治会、見える、マンパワー、公助、地域ケア会議、地域ケア推進会議、地域ケア個別会議、ケア会議、インフォーマル、認知症
●使用した品詞 名詞、サ変名詞、形容動詞、固有名詞、組織名、人名、地名、ナイ形容、副詞可能、未知語、タグ、感動詞、動詞、形容詞、副詞、名詞B、動詞B、形容詞B、副詞B、名詞C、否定助動詞、形容詞（非自立）

5

2. 強制抽出語を用いた共起ネットワーク分析結果



図Ⅲ－1 共起ネットワーク（N=58,E=61,D=.037,Jaccard係数≧0.2）

7

Ⅲ. 結果

1. H26調査結果に対する強制抽出語を用いたテキストデータに関する分析結果

表Ⅲ－1 基本統計量

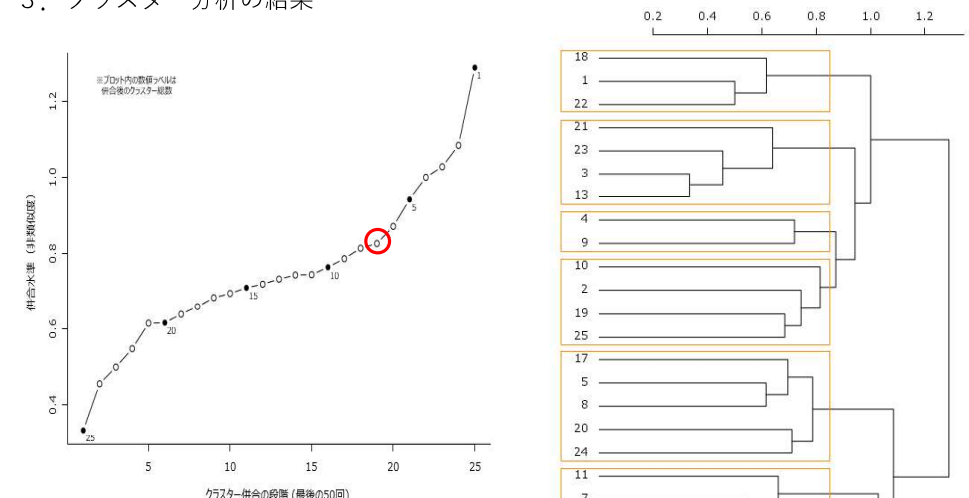
総抽出語数（使用）	28,394（12,749）
異なり語数（使用）	2,067（1,671）
抽出語の出現回数の平均	7.63
抽出語の出現回数の標準偏差	28.48
集計単位	文 ケース数 1,681
段落 ケース数	773

表Ⅲ－2 頻出上位50語の抽出語リスト

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
地域	555	介護	145	職員	83	業務	61
連携	294	理解	140	意識	75	推進	60
必要	263	社会	139	福祉	75	生活	60
住民	226	サービス	137	体制	73	専門	57
医療	194	行政	134	開発	69	考える	56
思う	185	ネットワーク	125	協力	68	人	52
関係	175	支援	118	把握	68	顔	49
地域包括支援センター	169	地域包括ケア	116	事業	66	見える	44
機関	168	課題	90	高齢者	64	市	44
資源	161	構築	85	確保	61	地域ケア会議	44
						システム	40
						作る	40
						情報	40

6

3. クラスター分析の結果



図Ⅲ－3 クラスター併合水準

最小出現数：2
最小文書数：1
集計単位：段落
分析対象となった抽出語：113語

図Ⅲ－4 デンドログラム

8

4. 各クラスターの特徴語

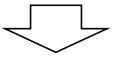
表III-3 各クラスターの特徴語							
1		2		3		4	
抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard
開発	.500	スキル	.250	それぞれ	.667	業務	.400
関係	.429	互助	.250	意見	.500	必要	.375
資源	.429	整	.250	改善	.500	施設	.333
インフォーマル	.333	職員	.200	確保	.500	事業	.286
顔	.333	分野	.200	交換	.500	MSW	.250
形成	.333	理解	.143	図る	.500	お互い	.250
見える	.333	体制	.111	声	.500	コンビニ	.250
習得	.333			発見	.500	サ	.250
場合	.333			把握	.333	スーパー	.250
知識	.333			企業	.333	ホーム	.250
5		6		7			
抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard		
啓発	.600	支える	.667	ニーズ	.600		
住民	.500	自治会	.667	含める	.600		
地域包括支援センター	.500	方々	.667	思う	.600		
支援	.444	在宅	.600	資源	.500		
予防	.429	充実	.600	社会	.500		
センター	.400	生活	.500	構築	.429		
共有	.400	提供	.500	基づく	.400		
情報	.400	ボランティア	.400	求める	.400		
関係	.333	対応	.400	限る	.400		
システム	.333	サービス	.333	考える	.400		

9

5. 各クラスターの特徴語を踏まえた自由記述に関する意味の解釈の例

第1クラスターに分類された段落と文章（赤文字は特徴語）
（段落18）
医療や介護の**関係**機関との連携を密にできるようネットワークの形成。地域住民の理解や協力。
社会資源の開発。
（段落1）
関係機関（医療・介護サービス事業者）、地域、**インフォーマル資源**との連携。
（段落22）
地域の医療、介護、福祉など、**関係**機関との連携、顔も見える**関係**作り。**インフォーマル**、
フォーマルサービスの把握、適切なサービスがない場合の**社会資源の開発**。福祉のみでなく、
医療など幅広い知識の習得。

意味の解釈結果



- 社会資源の把握と開発
 - ・インフォーマルサービス、フォーマルサービスの把握と社会資源の開発
- 関係機関との連携、顔の見える関係作り
 - ・医療、介護、福祉、地域、インフォーマルな社会資源も含めた関係機関との連携とネットワークの形成、顔の見える関係作り
- 地域住民の理解
 - ・地域住民の理解と協力
- 幅広い知識の習得
 - ・福祉だけでなく医療などの幅広い知識の習得

10

6. 各クラスターに分類された段落に対する意味の解釈結果を踏まえた地域包括ケアの推進要件

表III-4 各クラスターに分類された段落の意味の解釈結果							
第1クラスター	第2クラスター	第3クラスター	第4クラスター	第5クラスター	第6クラスター	第7クラスター	地域包括ケアの推進要件
		地域課題の把握と改善に向けて医療と介護の役割分担の明確化				地域の特性調査・地域診断、質的調査を行い、ニーズや実態を正確に捉え、サービスや社会参加の場を展開する	ニーズの把握
		行政と地域住民が意見交換をし、住民の声を把握することが必要					行政の関与
インフォーマル、フォーマルな社会資源の把握と開発			介護サービス事業者などの社会資源の充実		地域生活を支援する体制のための在宅医療、介護、福祉、生活支援のサービスの充実		サービスや社会資源
			家族の力が必要	インフォーマルな社会資源の把握とその情報管理	地域の中で見守り	地域力を活かして、ニーズに合わせて地域の社会資源の活用と開発、バックアップ体制の構築	互助
医療、介護、福祉、地域、インフォーマルな社会資源も含めた関係機関との連携	医療、福祉、介護、地域の連携体制の整備	地域住民、医療、介護との連携を強化し、企業との連携を行うことが必要	専門職との連携や地域のインフォーマルな社会資源との連携	地域ネットワーク構築と関係強化。医療、介護、地域、行政、関係機関の役割分担と連携強化	フォーマルサービスと地域の方々のインフォーマルサービスとの連携とネットワークの強化	行政、在宅医療、保健、福祉、介護、インフォーマルサービスの連携の立場での多職種連携	連携
地域住民の理解と協力	地域社会の理解と地域力を活かした住民相互の地域作り	地域包括ケアへの理解	地域住民の意識改革	地域包括支援センターの周知、地域住民への認知症、介護予防の情報提供と啓発、意欲付けが必要			啓発と理解
				地域包括ケアシステムについての周知			
福祉だけでなく医療などの幅広い知識の習得	地域包括支援センター職員の能力の担保		マンパワーと業務の軽減	地域包括支援センターが調整役になる		地域包括支援センターの役割や業務が過多	
			交通手段の確保	地域課題を医療、福祉関係者、地域住民とも共有し、役割を明確にする		地域や家族も含め社会全体を変えるような改革や動きが必要	基盤や体制の整備
				支援内容の明確化と介護予防対象者及び介護者への支援とフォローの整備		互いの状況を理解し、本音で話し合う機会	
				個別の課題解決だけでなく仕組み作りの視点		地域ケア会議の推進	
						認知症対策や認知症高齢者への支援体制の整備	

11

7. H28調査結果に対する強制抽出語を用いたテキストデータに関する分析結果

表III-5 基本統計量

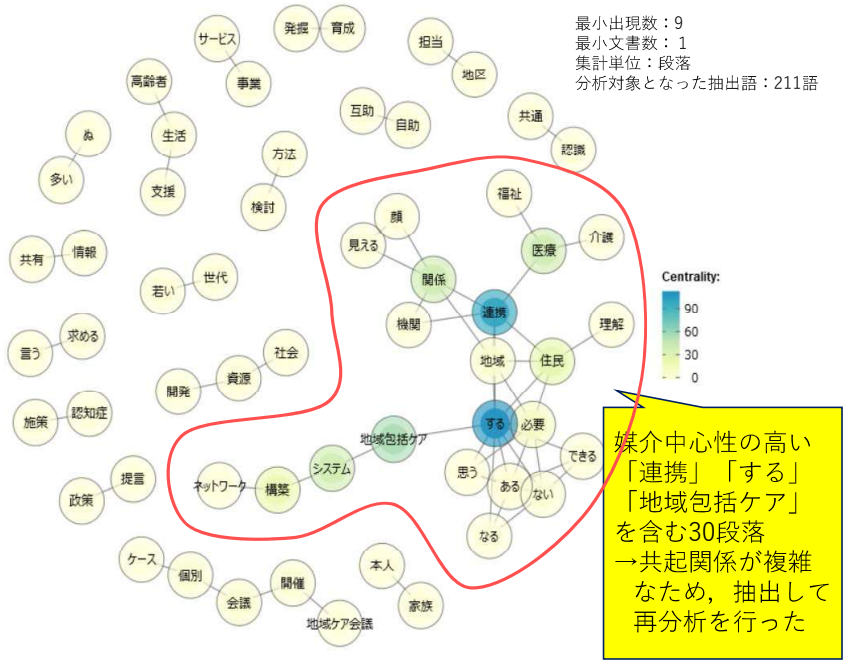
総抽出語数（使用）	24,453 (10,801)
異なり語数（使用）	2,130 (1,764)
抽出語の出現回数の平均	6.12
抽出語の出現回数の標準偏差	24.70
集計単位	文 ケース数 995
段落 ケース数	491

表III-6 頻出上位50語の抽出語リスト

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
地域	535	理解	116	人	61	周知	46	多い	34
住民	253	課題	102	福祉	60	体制	46	強化	32
連携	228	介護	101	高齢者	59	行う	44	参加	32
必要	216	行政	96	構築	56	共有	42	団体	31
関係	174	支援	84	専門	55	生活	42	感じる	29
医療	134	考える	79	意識	54	協力	41	会議	28
思う	131	サービス	77	システム	53	情報	41	知る	28
地域包括支援センター	124	資源	75	把握	49	ネットワーク	40	持つ	27
機関	120	事業	74	推進	47	顔	38	自分	27
地域包括ケア	119	社会	71	活動	46	見える	37	職員	27

12

8. 強制抽出語を用いた共起ネットワーク分析結果



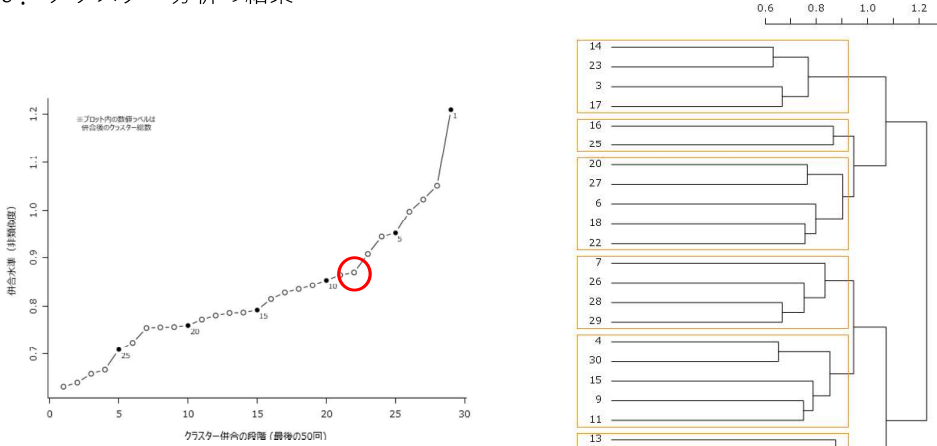
図III-5 共起ネットワーク (N=59,E=60,D=.035,Jaccard係数≧0.23) 13

10. 各クラスターの特徴語

表III-7 各クラスターの特徴語

1		2		3		4	
抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard
開催	.500	同志	.500	解決	.400	町	1.000
業務	.500	あり方	.333	方向	.400	民生委員・児童委員	.667
月	.500	コミュニティ	.333	行政	.333	社会福祉協議会	.500
十分	.500	違い	.333	お金	.333	PDCA	.500
推進	.400	活性	.333	なおざり	.333	う	.500
地域包括支援センター	.400	見合う	.333	もう少し	.333	パンフレット	.500
委託	.400	表面	.333	エゴ	.333	各々	.500
現状	.400	理解	.273	リハ	.333	形式	.500
思う	.364	専門	.250	確定	.333	見える	.500
周知	.333	多職種	.250	喜ぶ	.333	行動	.500
5		6		7		8	
抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard	抽出語	Jaccard
市民	.750	継続	.750	個人	.500	医療	.429
新た	.500	日々	.750	施策	.500	機関	.417
課題	.400	計画	.500	認知症	.500	関係	.357
開発	.400	警察	.500	構築	.400	福祉	.333
既存	.400	消防	.500	示す	.400	ボランティア	.333
向上	.400	障害	.500	重要	.400	域内	.333
高齢者	.400	日常	.500	システム	.308	話	.333
抽出	.400	分野	.500	支援	.300	広報	.286
サービス	.400	目	.500	体制	.286	若い	.286
	.333	目標	.500	事業	.273	暮らす	.286

9. クラスター分析の結果



図III-6 クラスター併合水準

最小出現数: 2
最小文書数: 1
集計単位: 段落
分析対象となった抽出語: 205語

図III-7 デンドログラム

11. 各クラスターに分類された段落に対する意味の解釈結果を踏まえた地域包括ケアの推進要件

表III-8 各クラスターに分類された段落の意味の解釈結果

第1クラスター	第2クラスター	第3クラスター	第4クラスター	第5クラスター	第6クラスター	第7クラスター	第8クラスター	地域包括ケアの推進要件
地域のニーズ把握		地域の個別課題を圍繞レベルの課題として抽出し、地域特性を活かした解決策を講ず		高齢者のニーズ把握と課題抽出し、高齢者の情報を集約すること				ニーズの把握
行政と市内の全地域包括支援センターとの会議で社会資源について議論し、行政へ政策提言				行政が明確な支援体制を構築することが必要		行政が具体的な指針を示したり、各自治体の実情に応じた組織を整備することが必要		行政の関与と役割
地域住民の力を活かしながら、地域の若年層や若い世代が互いに支え合い、地域のことを地域住民と一緒に考えていくこと	コミュニティの活性化			既存の活用可能な社会資源の整理と強化、開発が必要		提供できる社会資源が必要		サービスや社会資源
地域特性に応じた行政区画と地域包括支援センター、関係機関等との連携強化や役割分担を明確に、横断的な連携を強化	情報共有の方法の検討及び専門職間・団体間の課題も検討していくことが必要	行政との連携を行い、行政や地域の専門職、関係機関等と連携していくことが必要	市町村、地域包括支援センター、保健所、社会福祉協議会、各サービス事業所、病院、民生委員児童委員、関係機関等と連携	地域住民の課題解決する能力を向上することが必要	地域住民、関係機関、民間企業等を巻き込み、互いに支え合える地域作り、地域住民の相互協力が必要	住民同士で支える地域協力体制作りと働きかけ	専門職だけでなく地域住民や地域の若い世代も含めた地域ケア会議、地域ケア推進会議が必要	互助による地域作り
地域住民や若年層へも地域包括支援センターを周知	地域課題を地域関係者への意識付け、専門職や地域住民が地域包括ケアを理解し、地域の在り方を考える	地域住民が地域の現状や将来の地域の状況を理解し、考えることが必要	地域住民や関係機関と地域包括ケアや町の福祉課題について共有し、普及啓発	地域の特性に応じた地域課題の抽出と課題解決に向けた制度策定の見直し、政策へ反映させ、地域に周知	市内連携や医療、看護、介護、障害関係機関、警察、消防、地域住民、関係団体、関係機関等との相互理解と連携、他分野の専門職の連携が必要	行政、医療機関、介護事業者等、関係機関相互の緊密な連携体制作りが必要	医療、介護、保健、福祉、行政、地域包括支援センターや医師会、社会福祉協議会等の関係機関だけでなく、インフォーマルな社会資源との多職種連携やすみ分けなどの整理	連携
地域特性に応じた地域包括ケアについて市区町村や地域包括支援センターなどの専門職が連携	地域性の違いを理解した地域包括ケアの構築	財政や集いの場のための環境の整備が解決できることが必要		地域ケア会議では、生活支援へのニーズが日常業務で満たされることが必要	住まい医療介護予防に留意した地域作りが日常業務で満たされることが必要	個人情報保護の観点から地域住民を巻き込んだ支援や体制を構築することが必要	地域住民と地域内の医療関係スタッフが協議会を行うような企画力と実行力が必要	基盤や体制の整備
					地域包括支援センター等の中立機関が調整や働き役を担う		既存のシステムの継続が必要	

IV. 考察

- クラスター分析によって分類された地域包括ケアの推進要件に関する自由記述に対して、意味の解釈を行い、それを踏まえて明らかになった「推進要件」は、H26調査とH28調査ともに①ニーズの把握、②行政の関与／行政の関与と役割、③サービスや社会資源、④互助／互助による地域作り、⑤連携、⑥啓発と理解、⑦基盤や体制の整備の7つであった。
- また、具体的に両調査結果の差異について、検討してみると、H26調査では、「②行政の関与」に関する記述は、ニーズの把握の文脈において記述されており、1つの段落にしか見られなかったが、H28調査では、3つの段落に見られ、その内容についても地域包括ケアにおける行政の役割という文脈で記述されており、「②行政の関与と役割」として理解することができた。
- 同様に、H26調査では、社会資源の文脈において記述されていた「④互助」が、H28調査では、地域作りの文脈の中で記述されており、「④互助による地域作り」として理解することができた。

H26調査		H28調査
①ニーズの把握		①ニーズの把握
②行政の関与		②行政の関与と役割
③サービスや社会資源		③サービスや社会資源
④互助		④互助による地域作り
⑤連携		⑤連携
⑥啓発と理解		⑥啓発と理解
⑦基盤や体制の整備		⑦基盤や体制の整備

- これらのことから、地域包括ケアの推進に当たっては、「地方行政の役割」や「地域作り」が意識化されるようになってきており、平成28年以降、それらのことを意識した取り組みが肝要になるのではないかとということ、また、そのような取り組みが行われているのではないかとということが考えられた。
- しかし、本研究の調査から数年が経過しているため、今後、今般の政策状況を踏まえて、新たに調査を実施する必要があると考えている。

文献

- 樋口耕一（2004）「テキスト型の計量的分析－2つのアプローチの峻別と方法－」『理論と方法』，19(1)，pp.101－115.
- 樋口耕一（2014）「社会調査のための計量テキスト分析－内容分析の継承と発展を目指して－」ナカニシヤ出版.
- 潮谷有二（2012）「社会福祉士制度の見直しに関する実証研究－社会保障審議会福祉部会における議事録の基礎的分析を通して－」一般社団法人日本社会福祉学会 編『対論 社会福祉学3 社会福祉運営』，中央法規出版，pp.281-324.
- 吉田麻衣・潮谷有二・永田康浩 ほか（2018）「地域包括ケアの推進要件に関する一研究－全国地域包括支援センター調査結果の経年比較分析を踏まえて」『第23回 日本在宅ケア学会学術集会』.

※ 本研究は、文部科学省の「平成25年度 未来医療研究人材養成拠点形成事業【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成」に係る研究成果の一部である。